項目		取り組みの事実 （実施している内容　・　実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営 1.　理念と共有				
	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	今迄の生活を少しでも継続してもらいたい、生き生きと暮せるためには、どのような支援をしていったらよいのかを考え、皆で作り上げた理念であり、その理念を日々の生活の中で考え、再確認しながら地域の中で暮していき、『ひなた』の理念として定着してきた。今年度は、地域の中で支えあえてきている現状をふまえ、さらに皆で考え、新たに理念として掲げた。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	管理者と職員は常に理念を念頭におき、日々の生活の中で理念が実践されているかを確認しあっている。またミーティングや毎朝の申し送り時などでも利用者一人ひとりの情報を共有し、理念にそった支援のあり方について話し合いがなされている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	『ひなた通信』を利用者･家族などに毎月配布、又、町内会には『グループホームひなた便り』を回覧してもらい、日々の生活の様子などを伝えている。 また地域行事への参加や、ひなたの行事への誘いなどを通して、地域の中で暮していきたいという、ひなたの理念を理解してもらえるよう取り組んでいる。		
2.　地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩などを通して、近所の方と挨拶をしたり、声をかけあうなどの日常的なつきあいができるようになってきた。また『グループホームひなた便り』などで気軽に立ち寄ってくださいと呼びかけているが、なかなか気軽に立ち寄ってもらうまでには至っていない。ただ地域のボランティアの方との交流が増えたため、いろいろなつきあいが多くなり、喜んでいる。地域の行事には積極的に参加し、交流を深めるよう努めている。	○	気軽に立ち寄ってもらえるような言葉がけや工夫をしていきたいと思っているが、現実には、なかなか実現できない。それでもボランティアさんとの交流の中で少しずつでは、あるが、地域の人とのつ ながりが広がってきているのを感じることはできる。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の行事は積極的に参加している。 また、地域の美容室･商店･マッサージなどを利用し、地域の方と自然な交流 ができている。ボランティアの方との交流も含め、地域とのつきあいが随分増えてきた。		
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	キャラバンメイトの活動に参加し、認知症サポーターの養成に取り組んでいる。 また『グループホームひなた便り』の中で認知症についての資料をシリーズで掲載している。介護についての相談業務も掲げているが、この点について は、まだ地域に浸透していないが、おりに触れ、伝えるよう努めている。	○	ひなたの人達と地域の高齢者との関わりを持つ場の提供を考えていきたい。 すぐには実現できない事ではあるが、今後も少しずつでも地域貢献ができるよう取組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 （実施している内容　・　実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	改善点があれば、管理者・職員は評価を理解し改善に取り組むべき話し合いをしている。 昨年度の外部評価により、理念について更に話し合い、又、献立についても石狩市の栄養士の協力を得て、改善点などを考えるきっかけにしている。	○	住宅街にとけこむ住居ということで、あまりはでな看板をつけていないが、初めての訪問者にわかりにくいということで、看板について今後検討していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。 又、会議の内容は報告書として事務室に掲示し、全職員がその内容を把握している。又、誰もが、その内容を知ることができるよう皆が自由に見ることが出来る場所に掲示している。	○	職員が実際に運営推進会議に参加することが難しい現状だが、今後できるだけ参加できるよう、取組んでいきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	キャラバンメイトでの交流も含めて、行事への参加・相談など頻繁に 市町村担当者と行き来する機会がある。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	管理者は権利擁護制度について学び、必要に応じ、それらを活用できるよう にアドバイスしている。又、全職員ではないが、研修に参加し、学ぶ機会があったという職員が増えてきている。	○	今後も研修会への参加などを奨励し、権利擁護に関する制度の理解と活用ができるよう取組んでいきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	研修などで学んだ他、管理者・職員間でミーティングなどで話し合う場を持っている。又、事業所内で虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、利用者本位で考えるように努めている。		
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、事業所のケアに関する考え方や取り組みなどを十分説明し、納得していただいている。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容　・　実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者は日常の会話の中で意見などを出すことができるようになってきており、それを聞いた管理者や職員は必要に応じ職員の中で検討し、それらを 運営に反映するよう努めている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期及び個々にあわせた報告をしている。	月一回の『ひなた通信』の発行や、面会時の面談、必要に応じての電話やメール･手紙での報告などこまめに家族とは連絡を取り合っている。 また金銭管理については、毎月月末に〆て報告し、確認の書類を提出してもらっている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族と常に連絡をとっているため、不満、苦情などは、ほとんどないが、何か あった場合も検討し、運営に反映させるよう努めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングや、日常的な会話の中で職員の意見を聞き、運営に反映させている。 又、年に2回程、運営者や管理者と職員の個別面談を設けている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状況により柔軟な対応ができるように、管理者がその都度勤務体制の調整を行っている。また調整の際に話し合いを持ったり、職員も協力しあっている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動はない。新しい職員間での問題もなく、利用者へのダメージはないと思われる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	全職員が外部のスタッフ研修を受講し、さらにスキルアップできるよう実践者研修の受講を計画し、実現している。又、外部研修の受講を奨励し、費用についての援助を行っている。	○	他のグループホームやディサービスの見学をしていきたいという希望が職員の中から出されており、その点についても実現できるよう取組んでいきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	キャラバンメイトなど同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りなどサービスの質を向上させていく取り組みをしている。 市内のグループホームのスタッフ交流会を実現させることができ、職員も積極的に交流会に参加し、意見交換をしている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	一ヶ月の勤務体制は希望の休みも取れ、個人の有給休暇も取れる。 又休憩がゆっくり取れるよう休憩時間や休憩室が確保されている。		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	運営者は、現場にもよく来て、利用者と交流をもったり、職員の勤務状況も把握しようと努めている。又、職務要件書を作成し、年2回評価し、職員の向上心を高めるよう努めている。又、管理者は職員が責任を持って働けるようサポートし、困難なことがあった場合は、その都度対応するよう努めている。		
II．安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	相談から利用までの間に本人と話をする機会は少なかったが、利用に至ってからは十分に話を聴く機会をつくり、信頼関係に努めている。初期の段階では管理者との信頼関係が主だったが、現在は職員が皆、利用者の話をよく聴く機会を日々の生活の中で作り、利用者との信頼関係をつくるよう努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	相談の段階から、ご家族が困っている事･求めている事などを十分聴き、受け止める努力をしている。また利用後はさらにこまめに連絡をとりあい、実際に私達が行っていることを知ってもらうことにより、信頼関係を深めていっている。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容　・　実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた時に、まず必要としている支援を見極め、アドバイスをしたり、事業所としてできる支援であれば、柔軟に対応するよう努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	実際には利用を開始する前に馴染みの関係をつくるという事はなく、利用を開始した後から徐々に馴染みの関係を作っている。 ディサービスの利用については、体験をしてから決められる方が多くなっており、グループホーム･ディサービス共に事前に馴染みの関係を作れるよう家族と相談していく体制は整っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員は常に側に寄り添い、コミュニケーションをとれる雰囲気作りをし、お互いに気軽に話しかけられる努力をしている。そして人生の先輩として、本人を 尊重し、生活の知恵をもらいながら支えあう関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の思いを受け止め、家族と情報を交換し、共に支えていく関係を築いて いる。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	管理者や職員は、これまでの本人と家族の関係を理解し、家族が面会に来た時には、スムーズに会話ができるよう環境を整えたり、必要に応じてアドバイスや本人の気持ちの代弁をし、より良い関係が築いていけるよう、支援している。又中々会いに来れない家族には、管理者が連絡をとり、報告や相談をし、本人の思いを伝えたり、状態がわかるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	管理者や職員はこれまでの生活習慣が途切れないよう馴染みの場所や人との関係が継続できるよう支援している。この地で暮していなかった人は、どうしても関係を継続させる事は難しいが、手紙や電話、又は生活習慣の継続など、出来る範囲での支援に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者の間で仲のいい、気の合う間柄同士一緒に行動できる機会を作ったり、利用者同士の関係を把握しながら、何回か食卓の席替えをし、新たな親しみのある人間関係をつくる努力をしてきた。現在は孤立している利用者もいなくなってきたが、常に管理者や職員は利用者同士の関係が円滑になるように心配りしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用が終了しても、いつでも様子を聞く、相談に応じるなど関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
III．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向や希望の把握に努め、本人の思いを叶えるため努力している。直接聞いたり、また表情や行動から本人の意向が見え始めてきたが、決め付けにならないよう皆で検討するよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に、本人･家族･今まで居住していた所（病院･施設など）などから情報を得ているが、生活暦など十分でないので、本人との会話などから知る努力をしている。長く利用している方が多く、その会話の中から今までの生活暦や馴染みの暮し方が少しずつわかってきている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日常生活の様子、健康状態、排泄、水分等をアセスメントシートに記録。問題があれば検討して総合的に把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	一人ひとりの状態をアセスメントシートに記録し、入居者や家族との会話の中から求めている事を把握するよう努めている。 さらにミーティングの中で職員間で検討したものを参考にして、介護支援専門員が介護計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎月介護計画の評価を行い、必要に応じ、介護計画の見直しをしている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践･結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護計画に沿った実践ができているか、個々の利用者によって重要な記録とは何かを意識しながら、日々の記録をつけている。気づきや工夫も積極的 に記入するよう努めている。その記録により、情報を共有でき、実践や介護計画の見直しに活かされている。	○	本人の言葉や表現などを多く記入し、さらに実践に活かせる記録の工夫をしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	地方からの面会の家族の方には、気持ちよく泊っていただく。 体操･散歩などリハビリ的なものや、一人ひとりの希望をとり、買物･外食･ドライブなど、多機能で柔軟な支援をしている。 ディサービスの取り組みも含め、多機能性を活かした支援はさらに充実してきている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化･教育機関等と協力しながら支援している。	石狩消防署に協力していただき、避難訓練をしている。 町内会役員･民生委員との交流や傾聴･音楽･学生ボランティアなどの協力で楽しい時間を過ごすことができ、地域の方との交流が定着してきた。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	地域包括支援センター･介護保険課などのケアマネージャーとは、連絡をとり、介護保険以外のサービスの情報を得たり、ボランティア協会に登録し、 ボランティアの派遣を依頼するなど積極的に地域資源の活用に努めている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	利用者の支援のため、積極的に地域包括支援センターと協働している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。又、適時専門医の受診を受けられるよう、本人や家族と相談しながら受診の支援をしている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門医ではないが、認知症に詳しく、理解のある医療機関を確保しており、初診であっても職員が事前に相談して受診できるようになっている。		
45	○看護職との協働 ,利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	利用者をよく知る看護職員を有し、相談しながら、医療の活用と共に健康管理ができている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院の医療機関については、主治医との連携により確保することができる。 入院した場合は、家族に協力し、医療機関との話し合いなど、積極的に関わっている。特に必要以上の長期入院が本人にとって望ましくないと考えられる場合、管理者は主治医及び看護スタッフと情報交換し、住み慣れたホームに早く戻れるよう相談し、早期の退院を実現、援助している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	今年度は、実際に看取り介護を行ったが、入居当初より終末期のあり方について、本人･家族の希望を聞いており、主治医や家族との話し合いも十分でき、全員で方針を共有できた。結果的に皆が満足できる看取りを行えたと思う。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること･できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	今年度は、実際に看取り介護を行ったが、この事業所で自分たちに何が出来るかを見極め、主治医や家族と話し合いを重ねながら、終末期に向けた支援ができたと思う。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	新しい居所へ移られるときにはこれまでの生活環境、支援の内容、注意が必要な点について書類による情報提供は勿論の事、必ず関係者と直接会い、話をするよう努めている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	言葉かけや対応はプライバシーを損ねることのないよう職員は対応している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人の意向を聞き、希望に添えるよう支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一応食事の時間というのは決まっているが、一人ひとりのペースにあわせて 生活できるように支援している。体操やレク活動、散歩や外出なども本人の希望にそって行えるよう配慮している。		
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている。	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、希望の化粧品や衣類の購入、馴染みになった地域の美容室への付き添いや送迎、又、歩行不安定な方で希望される方には出張美容の依頼など本人の希望を最優先させるよう努めている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に食事の準備や後片付けをして楽しんだり、メニューにも希望の物を入れるように工夫して いる。特に誕生日には好みの物を聞き、好きな物を入れたメニューを作り、喜ばれている。	○	一緒に食事の準備や後片付けをする機会の少ない人もいるが、出来る事を見極めながら、さらに楽しく自然にできるよう今後も支援していきたい。

項目		取り組みの事実 （実施している内容　・　実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	日常的に飲む飲み物も数種類の中から好きな物を飲めるよう環境設定している。現在はお酒や煙草を好む方はいないが、個人的な嗜好品は自分で選んで買えるよう支援している。又外食の希望などもあり、職員が同行し希望が叶うよう支援している。おやつなどは、好みの物を聞いたり、手作りをしたりすることも多く、皆で楽しめる時間になっている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄の失敗のある人については一人ひとりの排泄パターンを把握し、記録の活用や話し合いの中でよりよい支援方法を検討している。 無理強いすることなく、本人の意向の尊重や、習慣をうまく活用して気持ちよく排泄できるよう、又それが難しい場合は清潔でいられるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日の設定はなく、希望すれば毎日でも入浴できるように準備し、タイミング をみて声がけしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	グループホーム入居者は全員個室のため、気兼ねなく休息したり、眠ることができる環境にある。 日中はできるだけ活動的に過ごせるよう、支援しているが、年々、睡眠をとりたい利用者が増えてきている。無理をせず休め、起きている時には元気に 過ごせるような支援を心がけている。ディサービスを利用している方もおり、個室はないが、休息を取れるようソファー等を活用している。		
（３）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	趣味の手芸･読書や健康のために行っていたマッサージの継続など、 本人の希望が少しでも叶えられるよう支援している。 本人が希望を言える雰囲気作りや希望を表現できない方には、職員の 働きかけによって楽しみのある生活ができるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族や本人の希望により、事業所でお金を預っている方がほとんどだが、少額を自分で持っている人も多く、一人ひとりの希望や力に応じての支援をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日には、できるだけ散歩ができるようにし、買物なども近くの店で購入できるような物は、自分で選んで購入してほしいという意味もあり、徒歩や車椅子でいけるよう支援している。散歩だけでなく、天気の良い日は屋外で過ごす時間を多くとるように心がけており、入居者・ディサービス利用者ともに好評である。車で行くような遠い所などは、その日の希望ですぐにというわけに行かないが、できるだけ早くその希望が叶うよう、積極的に支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	皆で同じ所へという外出よりも一人ひとりの希望にそった外出の方が喜ぶので、気の合う人同士や個別の外出を多く取り入れている。会話の中で一人ひとりの希望を聞きとり、計画を立てたり積極的に支援している。近くで行われるイベントなどの情報もキャッチし、できるだけ見に行く機会を作るなど外出の支援をしている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話・手紙のやりとりは自由にできるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	普通の家庭に遊びにくるような気持ちで来てもらいたいというのが、事業所の願いでもあるので、来客には気持ちよく過ごしてもらいたいと飲み物を出したり、居間や自室で自由に過ごせるようにしている。又食事やおやつの時間の時には一緒に食べていただいたり(状況により、自室・居間どちらでも)しており、利用者の楽しみでもある。家族など本人の部屋を使用しての宿泊もでき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所開設当初より職員には常に身体拘束をしないケアについて話をし、実際に身体拘束をしないケアを実践しているので、全職員が身体拘束をしないケアを理解し、取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間は防犯上、施錠しているが、日中は全職員が鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は一人ひとりの利用者について、どのような安全確認をしたらよいのかを把握しており、その状況によって所在や様子を見ている。 居間に利用者がいる場合は職員も居間で過ごしながら様子を見、個室にいる場合はプライバシーに配慮しながら時々様子を見に行き、安全を確認している。玄関を施錠していないので、ドアの開閉の時に鳴るチャイムが役に立っている。		
68	○注意の必要な物品の保管･管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	愛用されている編物針･縫い針･はさみなど状況に応じ対応している。 洗剤や包丁などは鍵のかかるボックスに入れ、職員が使用しない時には施錠するようにしている。薬は鍵のかかる事務室に保管し、服用する分の薬だけを担当職員がポシェットに入れ、携帯している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	リスクマネジメントマニュアルやヒヤリハットを職員間で確認をして、日々事故防止に取り組んでいる。 火災訓練については、年に2回消防と連携して行っているが、その他に毎月1回避難誘導訓練と言って玄関まで避難する訓練をしている。 どちらも職員･利用者ともに参加している。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルを参考にして対応しているが、定期的な訓練は行っていない。	○	定期的な訓練を行うよう努力する。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	月に1回の避難誘導訓練と年に2回の消防との火災訓練を行い、今年度は初めて夜間の火災時の避難訓練を行った。 地域の人々の協力としては民生委員にお願いして、石狩の防災マップに当事業所も入れてもらった。 又運営推進会議などで、地域の方の協力がほしいとお願いしている。		
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	入居前には一般的なリスクについて説明し、入居後は利用者の状況を把握することにより、より具体的なリスクについて話し合っている。 普段の面会時に様子を伝えたり、ケアプランの説明の時など話し合う機会は多い。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				

項目		取り組みの事実 (実施している内容　・　実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝のバイタルチェックや、日々の観察により異変に気づいた時は管理者や看護師に報告し、対応に結び付けている。又、毎朝の報告や記録により変化に気づき、皆で情報を共有できる。又24時間対応してくれる医療機関と提携しており、すみやかに対応できる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりが服薬している薬の内容については個人ファイルに綴じられており、薬の目的は理解している。薬の変更や症状などはアセスメントシートに記録され確認している。管理者･看護師を中心に服薬の対応に十分注意をしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	便秘の予防と対応について理解し、一人ひとりに応じて飲食物の工夫をしている。 水分摂取や身体を動かす働きかけにも努力しているが慢性的な便秘の場合は医師と相談し、服薬で対応し、苦痛のないよう配慮している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の口腔ケアができる利用者は自ら実施。自らできない利用者には毎食後の口腔ケアの支援をしている。また、義歯使用者には、本人や家族と相談の上、必要に応じ、夜間ポリデント液に浸して預っている。 又、今年度は歯科衛生士による口腔機能向上お試し会も行い、新しい情報を取り入れることにも積極的である。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの状態に応じて、一日の水分量や食事量の記録をつけながら、確保できるよう支援している。 又食事や飲水の様子の変化も記録にとり、どのような工夫が必要か、常に検討している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	利用者･職員共にインフルエンザの予防接種を受けている。 感染症に関する予防と対応のマニュアルを作成し、皆で学習し、実行している。 又、今年度は新型インフルエンザの流行が心配され、玄関に消毒液を置き、予防を強化するなど実情にあわせて対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食中毒予防のマニュアルを作成した際、当事業所で実行できる消毒法を検討し、実行している。手洗いの励行、まな板･包丁などの消毒、布巾は小まめに取り替え、毎回粉石けんを使用し、煮沸消毒をしている。また冷蔵庫内の点検をし、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしの支援 (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人達にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前には手作りの看板や季節の花を飾り、明るい雰囲気になっている。 また一般の家庭の雰囲気があり、周囲にとけこんでいる。	○	初めての方がわかりにくいという事もあり、周囲との調和を考えながらも看板の工夫などは検討していきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	大きな日めくりカレンダーは目につく所にかけ、利用者が積極的に管理している。 居間や廊下、玄関などは季節によって飾り物を変えたり、花を飾り、居心地の良い空間を作り出すよう努めている。 又、日当たりが良いため、カーテンなどで光の調節を行っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	狭い空間ではあるが、食卓テーブルの座席の工夫により、気のあった人同士でくつろいだり、お客様と話したり、またソファーで自由に過ごしたりと一人ひとりの居場所作りが出来てきている。 又、グループホーム入居者は独りになりたい時には自室にもどりゆっくりすることができる。	○	ディサービス利用者が独りになる空間がなく、楽しく過ごせる工夫をしているが、ゆっくりしたい方については、今後もどのようにしていったら良いか検討していきたい。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過せるような工夫をしている。	部屋に好みの飾り物を置いたり、鉢植えの花を置いたり、テーブルと椅子を置いたりとそれぞれの好みに合った使い方をしている。入居時は持ち物がない利用者も多かったが、ここでの生活の中で馴染みの物になり、居心地よく過ごせるよう工夫できてきた。		
84	○換気･空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	居室に温度湿度計を設置し、それぞれに合わせた温度調節に心配りしている。 尿臭･便臭などで不快にならないよう換気や消臭をこまめにしている。 居間には空気清浄機の設置もしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレや通路、風呂場などに手すり設置、又、個人状況に応じ、居室にも手すりやベッドなどを入れ替えたり工夫･配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	自分の身の回りの整理整頓をするうえで家具の配置など動きやすい工夫をし、支援している。タンス･引き出しの中身がわかるよう品物名や図で表示するなど必要に応じた支援もしている。又、各個室、トイレ、洗面所など名前や場所を分かりやすくプレートを下げて表示している。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭に植木や花を植え、季節の花、トマトなど入居者が職員と一緒に植えたり収穫したり、花を眺めたりして楽しんでいる。		

Ｖ．サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者○○○ ②利用者の2/3くらい○○○○ ③利用者の1/3くらい　○ ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある○○○ ②数日に1回程度ある○○○○○散歩などで公園でゆったり過ごす場面が持てる ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者○○ ②利用者の2/3くらい○○○○ ③利用者の1/3くらい○ ④ほとんどいない○
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者○○○ ②利用者の2/3くらい○○○○ ③利用者の1/3くらい○ ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい○○ ③利用者の1/3くらい○○○○ ④ほとんどいない○○
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者○○○○ ②利用者の2/3くらい○○○○ ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者○○○ ②利用者の2/3くらい○○○○○ ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	①ほぼ全ての家族○○○ ②家族の2/3くらい○○○○○ ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない

Ⅴ．サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度○○○○○○○ ③たまに○ ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている○○ ②少しずつ増えている○○○○○ ③あまり増えていない○ ④全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が○○○○ ②職員の2/3くらいが○○○○ ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが○○○○○○○○○ ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が○○○ ②家族等の2/3くらいが○○○○○ ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点
等を自由記載）

自分らしく生活できるようお手伝いしていきたいと思っています。
グループホームの中の人間関係だけでなく、色々な人と交流をもつことによって、良い人間関係を作れることもあります。そのためにも地域の方やボランティアの訪問を積極的に受け入れています。
家庭で普通に行えるような行事の取り組み方をしています。例えば、その人の誕生日にお祝いをする。季節の行事を感じられるような食べ物を作るなど。
週に数回、手作りのおやつを作り、おやつタイムを楽しむ。又ボランティアを初めとして来客との会話も食べて飲んでおしゃべりすることによって和やかなものになっています。